

平成30年度 第3回荒川地区地域審議会 会議録

1. 開催日時 平成30年2月9日(金) 15:30~17:00
2. 開催場所 荒川支所 3階 第1・2会議室
3. 出席委員 会田 健次、信田 瑠美子、齋藤 富一、山田 正巳、
片岡 弘、高橋 豊明、小川 巖、石山 忠一、本間 恵
鈴木 薫
4. 欠席委員 山田 俊治郎、眞田 弘美
5. 出席職員 小川荒川支所長
政策推進課；山田課長、林係長、田村係長、酒井主査
荒川支所地域振興課；平田室長、岸主査
6. 傍聴者 なし
7. 会議次第 別紙のとおり
8. 会議経過 別紙のとおり

平成30年度 第3回荒川地区地域審議会 会議次第

- ・日 時：平成30年2月9日（金）
午後3時30分～
- ・場 所：荒川支所 3階 第1・2会議室

1 開 会

2 会長挨拶

3 議 事

(1) 市町村合併のまとめ（案）について

…資料1

4 その他

5 閉 会

会 議 経 過

1. 開会 (15:30)

事務局； 定刻になりましたので、只今から平成29年度第3回荒川地区地域審議会を開会いたします。最初に開会にあたりまして、会田会長よりご挨拶をお願いいたします。

2. 会長あいさつ

会 長； 皆様、お忙しいところご出席を賜りましてありがとうございます。
ここ数年に一度の大寒波でありまして、各地で被害や交通機関の乱れが出ております。村上市でもまだ警戒態勢が解かれていないようでありますが、明日からは、天候も回復するようであります。

皆さんには、平成20年の合併以来、合併後のまちづくりや市政に対しての意見をいただきました。長い間本当にありがとうございました。

今日は、地域審議会の集大成であります最後の会となります。よろしくお願ひします。

また、今日は坂町病院の鈴木院長からもご出席いただきましたが、鈴木院長には合併当初から地域審議会の委員としてご尽力いただいたところでありますが、荒川地区の中核病院として日ごろからご尽力いただいておりますし、この地域審議会で提案いただいた病児保育が実現できました。非常に感謝しております。坂町病院は、地域の医療機関の中心的な役割を果たすものと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひします。

事務局； ありがとうございました。

それでは、欠席委員の報告をいたします。報告をいただいていたのが、山田委員、眞田委員です。本間委員は遅れて出席になるかと思ひます。

次に資料の確認をお願いいたします。

【配布資料の確認】

なお、本日は本庁政策推進課より、山田課長、企画政策室の林係長、田村係長、酒井主査が、荒川支所より小川支所長、地域振興課自治振興室の岸主査と平田が出席しております。

それでは会議を進めさせていただきます。

日程3、議事に入ります。ここからは会長に議長をお願いし、会議を進めていただきたいと思います。会長、よろしくお願ひいたします。

会 長； それでは、慣例によりまして私の方から議事運営をさせていただきたいと思ひます。今日は、議題が一つになっておりますが、(1)の市町村合併のまとめ(案)についてでございます。前回、皆さんに案をお示ししていたわけでありまして。その後、皆さんにご意見を求めてまとめさせていただきました。政策推進課から内容について説明願ひします。

3. 議事

(1) 市町村合併のまとめ(案)について

事務局； 【市町村合併のまとめ(案)について説明】

【市町村合併のまとめ(原案)についての意見等説明】

会長； 今回は、委員の皆さんからのご意見をまとめさせていただき、案とさせていただきます。

資料には各地区からのご意見が記載されていますが、荒川地区からは意見が少なかったようです。皆さんからのご意見またはお聞きしたいことがありましたら遠慮なくお願いします。

各地区からの意見を見ていると人口減少が一番の課題として見て取れます。これは、全国どこでも課題となっていることですが、村上市でも一番の課題として考えているところでもあります。

参考までに村上市の区長会長の会議で「村上市の一番の課題は何か」という話の中でも人口減少問題が出されていました。集落や地区で人口が減少したために色々な障害や弊害が出てきているということです。それに伴って空き家が増加傾向にあるということです。この空き家対策が心配されるというのが、村上市の区長さん方の大半のご意見でした。

空き家対策は、村上市でも色々取り組んでおりますが、有効な手段が中々無いというか、財産や相続の問題があるので、先が進みにくいというのが実態だそうであります。

資料の人口の推移を見ますと、合併時から約1万人近く人口が減ったということでもあります。これは、荒川や神林地区と同じ規模であります。たった10年間でこれだけの人口が減ったわけです。

そのようなことも踏まえて皆さんからご意見をお願いします。

委員； 意見ですが、人口減少問題はここだけでなく日本国中で課題となっています。資料にあるように荒川地区や村上地区では、人口は確かに減っているわけですが、世帯数は増えているというのはどういうことなのでしょう。想定されることは、核家族が増えているということではないでしょうか。核家族は、比較的若い世代だと考えられます。こうした若い世代の皆さんに定住してもらうためにはどうしたら良いかということで、来年、再来年ではなく長い目で見て将来どのような地域にしていくのか、具体的な計画を立てていかなければならないと思います。

村上地区では城下町ということで歴史や文化を活かした街の活性化を行っているわけです。山北では、Uターンしてくる人の受入れのための取組をしていると聞いています。地域の実情は違うと思います。そうした中で荒川地区はどうしたら良いのかを考えていかなければなりません。他の真似をしてもダメですよ。

会長； 村上市でも人口減少問題対策に取り組んでいます。具体的な施策を紹介してください。

事務局； 特に、これをすると人口が増えるということは無いかと思えます。総合戦略の中では、各産業の支援等を行う。その中でも農林水産業の後継者育成を図っていくこと、また商工業者で新たに起業する方を支援すること、空き家を使って店舗を展開する場合に補助金を出すなどしています。小さなことですがけれども継続していくことで、人口減少の減りを少なくしていきたいと考えています。国レベルで人口が減る中で、村上市が人口を増やすというのは、そのような状況にはありません。その他に、子育て支援として多子世帯、第2子、第3子の保育料を軽減することなどで、若い世代で所得の少ない皆様に子育てを楽しんでいただけるよう支援しているような状況です。

先ほど話のありましたように核家族が増えている状況で、共働きも増えています。子どもを保育園に預けなければいけない、未満児保育の希望が増えています。そうした希望を受ける保育園などの施設や、保育士などを確保しなければならない、また病児保育などを作らなければいけないなど様々な取組が繋がっていかねばなりません。

会長； 人口減少というのは、なかなかこれという対策はないかと思えます。結婚して子どもを産んでくれる環境を作ることが大切です。荒川地区の地域審議会では以前からこの課題について話していましたが、荒川地区は比較的人口減少が緩やかな地域です。この原因を考えた時に、暮らしていくための条件として働く場所があること、医療施設が充実していること、子育てがしやすい、これが人口を定着させるための大切な項目になると思えます。

地域審議会では議論はしてきたが、10年間で約1万人も人口が減ってきている。これは、村上市だけでなく全国的な傾向になっています。一気に解決できないことでもあります。市外からの転入者を引っ張ってくるような政策も必要だと思います。宅地造成して、若い世代に住んでもらうなど、合併直前には旧荒川町で公共用地を宅地として分譲しました。こうした政策も必要だと思います。

委員； 今ほど会長から他の地区から引っ張ってくるしかないというような発言がありましたが、そのためには、例えば市営住宅など住宅面を確保することが必要なのではないのでしょうか。村上市では、そうしたことは計画に入っていますでしょうか。

もう一点、平成26年から地域おこし協力隊を導入しております。今年で4年目ですが、これは都会から来てもらう、場合によっては家族で来てもらうということだと思いますが、おもしろそうな事業だと思います。全国的に実施していますが、村上市では3年間の任期が終わった後で、定着しているのかどうかを教えてください。また、協力隊以外でも都会から移住してもらうための政策などはあるのでしょうか。

事務局； 移住者を迎える政策ですが、昨年度、合併前に大津地内で実施したクロスカス団地と同様の取組として、旧大津保育園の跡地が3,000㎡あります

が、若者で市外の方という条件付きで公募しました。

事務局； 結果、応募者は0名でした。要因としては、土地価格が高すぎた。土地の条件が宅建業者からすると悪いということでした。一つは、小学校から遠い、保内小学校に徒歩で通うためには一番遠い。これより遠ければバス通学になる。それと、目の前に水路があって危険である。買い物にも遠いなど、様々な条件から条件は悪かったようです。やはり我々素人が考えるよりも民間事業者に安く買っていて、民間のノウハウで売ってもらえるように第二の手段を考えています。

会長； クロッカス団地は結果的には良かった。大津地内ということで、金屋小学校の児童が一時的に増えたなどの効果があった。

事務局； クロッカス団地は、当時の荒川町で実施して、町内からと町外からがちょうど半々で24世帯が家を建てた。その子どもたちがもうすぐ中学生・高校生くらいになるので、金屋小学校がまた児童数が少なくなる見込みです。一時的には効果がありましたが、継続していかないと少子化は止められない傾向にあります。

会長； 合併して、同じ村上市内で引っ張り合っても仕方ないですね。やはり、市外から移住してもらうことを考えなければなりませんね。

委員 年齢別人口の推移というのがありますが、20代30代で世帯数が増えたといわれる世代がどのように変化しているのかも資料として必要なのではないのでしょうか。現在どのくらい住んでいるのか、あるいは住宅をこれだけ建てたらこれだけ住むのではないだろうかなど指標や目標を立てて、もう少し細かい年齢区分による資料が必要ではないのでしょうか。

事務局； 年齢別の前に、先ほどの市営住宅の件をお答えします。市営住宅を増やすという考えは、村上市ではありません。村上市全体でみると中川原住宅は老朽しており、立替えをしなければならぬと考えています。これ以上、市営住宅を増やすよりも民間のアパートへの入居する若い世代の方に家賃補助などの方が現実ではないかという話が出たことはあります。市営住宅を建設するということになると相当な金額がかかりますので、それであれば、空いているアパート、空き家ではないですが空き部屋があるので、家賃補助の方が現実的ではないかと思われます。ただし、今すぐ実現するというような話ではありません。

また、地域おこし協力隊ですが、3年を過ぎてということですが、今年度末でやっと3年の任期を終えられる方がやっと出てくるという状況でしょうか。現在の協力隊の中で一人はすでに結婚して住んでいらっしゃいます。それ以外の方で、年度末以降に定住される方というのは私どもでは聞いておりません。

市外から人を入れるという意味では、空き家バンクをホームページで公開して取り組んでおります。家を買ってもらって住んでもらうということで何家族かはいらっしゃいますし、空き家バンクへの登録数も増え始めています。なので、一つの手段としては有効ではないかと思えます。なお、

移り住んで住宅を直すという場合には、その補助をする事業もあります。

事務局； 年齢別人口ですが、資料にある3つの区分で上げさせていただいております。1歳刻みの年齢による資料は、あまりにも大きすぎるので、掲載しておりません。私どもで整理している情報の中で申し上げますと、0～2歳の子どもは1年間で400人を切って、350人に近づいている状況です。毎日一人生まれるかどうかということになります。中学生くらいになりますと450～500人くらい、高校卒業頃にはやはり転出が増えて、年齢別人口が減ります。大きく減るのは、大学進学に併せて、そして、大学卒業の頃、大学に行っても住民票を置いておく方がいるのですが、就職などにより住民票を移す方もいるので、22歳23歳くらいの転出もあり大きく減ります。30歳くらいまで毎年減っているという状況にあります。30歳以上になると落ち着くといいますか、出ていく方と入ってくる方が同じくらいになるといいますか、大体固定してきます。今ですと30歳過ぎですと500から600人くらいだと思います。それ以上の年代になると徐々に増えていきまして、一番多いのが65歳から70歳くらいの世代で1,200人くらいだったと記憶しております。その上になりますと徐々に亡くなる方もいらっしゃいますので、減少していきます。情報としてお伝えします。

荒川地区の状況を申し上げますと、今年は特に出生数が少ないです。最近では70～80人でしたが、今年は母子手帳などの状況を見ますと60人台になりそうです。

委員； 商工会などが婚活事業などをしていますが、婚姻数も減っていますか。
事務局； そこまでは把握していません。

先ほど話があった地域おこし協力隊は、村上市で6名導入しています。山北に3名、朝日に2名、神林に1名です。3年を迎える方が1人、2年目の方が朝日で1人、4人の方が1年目です。ですので、導入してまだ日が浅いという状況です。

会長； 実際は、地域おこし協力隊は効果がないという話が聞こえてくる。
事務局； 移住・定住ということになると山北で結婚された方は定住されると思いますが、それ以外の方は、なかなか難しい面もあります。任期途中で帰った方もいます。

委員； 定住できない理由は分かりますか。例えば、給料が安いなど。
新発田市の山奥で地域おこし協力隊が家族も連れてきて移住して、5～6人増えて集落の方が喜んでいてという話も聞いた。

事務局； 現在、地域おこし協力隊が全国的に取り組みられるようになって、人材の取り合いになっている。受け入れていただく地域の方と来てもらう本人との意識の違いなどもあるようです。3年間で、その後の生業とする仕事を見つけていくことが難しい面もある。継続して取組み、長いスパンで考えていく必要があると思います。なかなか大きな成果はすぐに出ないかもしれませんが、そうしたことで取り組んでいます。

委員； 先ほどの新発田市の例でいうと、協力隊の方が元気のある方で、地域の

おじいちゃんなどを引き連れてイベントなどを実施しているそうです。集落の皆さんが喜んで参加しているそうです。

会長； 坂町病院で過去に産婦人科がありましたが、現在はありません。今後の見通しはあるでしょうか。

委員； 今後、産婦人科を設ける予定はありません。新潟市民病院も数が減らされています。このように大きな病院でも産科が減らされています。その受け入れ先として、何人かで集まって個人病院を開設されているという話も聞きます。新発田病院もやっとの状況で実施している。村上病院もいつまで続けていけるかという状況だと思われまます。

会長； 村上圏域でも新発田市や新潟市に行っているのですよね。
村上病院が平成 32 年に移転し、開設されるわけですが、医師が増えるということではないのですね。

委員； 若い人たちと交流すると、結婚したいという人が少ないようです。結婚しないことには子どもが増えるわけがないと思います。

委員； 環境が変わり若い人たちの価値観も変わりました。結婚は苦勞するだけだと思っています。40 代以上で独身の人がいっぱいいます。「なぜ結婚しないのか」と聞くと「めんどくさい」「束縛されたくない」などの話が聞こえてきます。

委員； 荒川町の結婚相談員を 10 年しましたが、本人が来ないので。家族の方が相談に来るのです。そうした方たちが現在は 65 歳くらいで老々介護になっています。

委員； 世の中が便利になり、自己中心で生きている人が増えています。

委員； 情報化社会で人間関係が希薄化しているのも原因だと思われまます。

委員； もう一つは、給料が低いのですね。大企業は無いし、それが一番ではないでしょうか。

委員； 県北地域では、市役所職員が一番良い方で、それと同等以上の企業はあまりありません。例えば、胎内市に行けばクラレなどの企業であれば役所よりも高い水準だが、村上市にはありません。

委員； 荒川町の商工会役員時代に、「荒川町を活性化させるにはどうしたらいいか」を考えた時に、企業を誘致するのではなく、利便性の良さです。病院や駅などの環境もよい。他の地域の会社に通勤するにも利便性が良い地域です。新潟市までも通勤できます。

やはり、住むところにするためには、そうした良いところを売りにした方がいいのではないのでしょうか。

荒川には大企業があるわけでもなく、観光地があるわけでもない。それを作ろうとしても大変なことです。荒川地区は「住みやすいところ」が売りなのではないのでしょうか。

委員； 会長が冒頭に話をしたように、この地域は県北では交通の要所でもありますし、いい意味で人口減少が少ない地域です。やはり住みやすい地域なのだと思います。雪が少ないのも良いところですね。

- 会 長； 村上市の総合戦略を実施していますが、企業を育成するとか、経営基盤を強化するなどの施策もあるのでしょうか。ところで、農業はどうなっているのか。このままでは、地域で農業する人がいなくなってしまう。そこを考えないと人口減少にもなるし、集落もなくなってしまう。もう少し、先を見越した施策が必要ではないでしょうか。基幹産業として農業のことを考えてほしい。
- 委 員； 今は、農業が大変そうなイメージです。
- 会 長； 村上市でも副市長を先頭に取り組んでいます。
- 委 員； もう少し、関係するあらゆる団体が集まって、先を見越したプラン作りをする必要があります。そうしなければ、地域農業はもう終わりになってしまいます。
- 委 員； 年齢的に私は65歳ですが、農業者の中で一番若いです。
- 委 員； 今、農業の主力は60代から70代です。「動ける内は百姓する」という方がほとんどです。
- 委 員； 一時期は50代が中心だったが、その下の世代が出てこないの、今のよう状況になっています。もう何年かすると70代が中心になります。
- 会 長； 一部では若手の担い手が法人化しています。
- 委 員； それでは、集落が維持できません。大規模化ばかり進めてきたが、それでは良くありません。集落の合意形成もできなくなります。村上市の農業政策は全然出てこないがどうなっているのですか。村上市は、他市に比べて悪いと思います。
- 委 員； これまで圃場整備などで何十億もかけてきました。条件は悪くありません。
- 事 務 局； 報道によれば農作物の輸出が増えているということです。1位が牛肉、2位がお茶、3位が米だそうです。戦略を作っても流通させなければいけません。
- 委 員； 農協では加工作物や園芸などいろいろ提案はしています。ただし、高齢化で後継者がいなくて続けられずに結構辞める人もいます。担い手が育たない状況です。
- 会 長； 海老江の法人もこの辺で一番面積を作っている方です。
- 委 員； やはり副市長を先頭に農業団体が集まって今後の戦略を考える必要があるのではないのでしょうか。
- 会 長； 地域農業振興のための組織もありますか。
- 委 員； 今が農業の変革時期なので、今行わなくてはいけないと思います。これから生産調整が無くなって米価が暴落すればどうするのですか。なおさら農業する人がいなくなるのではないのでしょうか。
- 会 長； この審議会は最後ですが、合同の会議をする予定です。3月頃でしょうか。
- 事 務 局； 3月14日に、各地区の正副会長にお集まりいただきまして、市長、副市長と合併のまとめの提出と意見交換をさせていただく予定にしております。

会 長； 来年度以降は、地域から意見を吸い上げるために地域会議で議論するということです。時間がまだありますのでご意見ありますでしょうか。

委 員； 聖籠町では人口がそんなに減っていないという話ですがどうでしょうか。

事 務 局； 保育料無料などで子育て支援が手厚いが、進学により流出している人もいます。JR線が無いのが原因と思われれます。

委 員； 人口が増えているようなところはあるのですか。

事 務 局； 数字的には粟島浦村です。それと、先ほどの聖籠町がそれほど減っていないという状況です。

委 員； 新津の方で人口が増えているという話も聞いています。小児科や産婦人科の患者が増えていると聞いている。亀田バイパスが通って、新潟市中心部まで通勤しやすくなったということです。そういうことを考えれば、この地域で人口を増やそうとすると地元は少なくなっているのです。新潟市方面から若い人間を連れてくるしかないわけです。そのためにネックになるとすればやはり交通の便です。高速道路は通っていますが、料金も掛かるので毎日の通勤には使えないので、例えば高速料金をあまり掛からないようにして、土地が安ければこちらに住む人もいるのではないのでしょうか。

亀田周辺も昔は畑だったところにすごい勢いで住宅が建ちました。これもやはり亀田バイパスが整備されて、新潟市中心部までの通勤が良くなって、一気に人口が増えてきたようです。生活していくためには給料がもらえないと始まらないし、ここに企業を連れて来ようとしても難しい。教育や医療環境の問題もある。若い世代は、新潟市民病院やがんセンターへ行ったりもします。ということは、ここで新潟市と同じ条件でしようとしても無理なので、ここに人を惹きつけるような施策を考えるしか無いのではないのでしょうか。聖籠町は、おそらく新々バイパスに乗れば新潟市まで近いこと、元々が田んぼだった場所に安く宅地造成したことなどが人口増加につながったのではないのでしょうか。

農業に関して言えば、国でも後継者育成を考えているようですが、今は医者ですら「働き方改革」と言われていますので、農業も繁忙期には休みが無い、収入が安定しないなどの条件ですと、若い人間は参入しにくい、システムの持続していけません。そうなると、企業化してサラリーマンのように週に1回は休みを作ることや、ある程度収入は保障するなどしていかなければ担い手はなかなかいないのではないのでしょうか。

医者の世界でも我々のように24時間365日というのが通用しなくなってきました。割りと楽な方に医者が流れている傾向があります。昔に比べて楽なのに少しきついと「当直はやりたくない」なども出てきている。その要求に応えないと、医局に医者が集まらないということがあります。

良いか悪いかは別にして、世の中の流れに合わせていかないと生き残っていけない状況になっています。

先ほどから話が出ている世帯数が増えているということですが、どのよ

うな世代が増えているのでしょうか。

会 長； 世帯の年齢層までは調査していませんね。

委 員； 例えば、荒川地区であれば関川村や山形県小国町などから「地元は雪が多いから」という理由で引っ越して来ることや、村上地区であれば山北や朝日から引っ越して来ているという可能性もあります。高齢者が引っ越して来て増えているという場合と、いわゆる働き盛りの世代が増えているという場合では、根本的に課題が違ってくるので、世代のデータがあればと思い質問しました。

事 務 局； 世帯の増えた年代層について分析はしていません。ただ、山北と朝日がこれだけ人口が減っているのはデータで現れています。感覚的になってしまいかもしれませんが、若い世代が住宅を求めて交通の利便性が良いところに家を建てて、もしくはアパートを借りて暮らしているようです。

山奥の集落が住みにくいので高齢者の方が引っ越して来るということではないと思われます。ただ、その先にあるのは若い世代が「おじいちゃん、おばあちゃん、こっちに出て来いよ」ということで呼び寄せるケースはあるかと思いますが、大きいのは若い世代が単独で出てくるというケースが多いようです。特に最近は結婚すると「親と一緒に住みたくない」ということがよくあります。親の方も同居を望まないケースも多いようです。

会 長； 昭和40年代ころから関川村・小国町などから移住してくる方がたくさんいた。その頃は、荒川町でも人口が右肩上がりでした。

事 務 局； 荒川地区は、若い世代の流入もありますが、定年退職でリタイヤされた方が移住するパターンも見られます。

先ほど、鈴木委員が言われたように働く場所は新潟市近郊にたくさんあるので、そこで働く人をこちらに住んでもらうことを考えなければならないでしょう。

企業誘致もよく言われますが、雇用のミスマッチが生まれるのです。この地域には、働く人が少ないですからうまくいきません。村上市の方針としても企業誘致よりも今ある企業の体力を上げる方向にシフトしてきています。

委 員； 資料を見ていると事業所の数は減っているのに人数はそんなに変わっていません。ということは、小さな事業所が無くなって、大きくなっているということですね。

事 務 局； 代表的な所で言うと、航空機産業のジャムコとその関連会社が一番の要因だと思います。

委 員； その内に胎内市に行くのではないのでしょうか。

事 務 局； それは、何としても避けたいと思います。

委 員； 胎内市は人口が増えているのでしょうか。

事 務 局； 減少しています。

委 員； 胎内市では大学を誘致したりしていますね。胎内市の中でも黒川地区は人口が減っているかと思いますが、旧中条地区だけですとそれほど減って

いないのではないのでしょうか。

事務局； 増えてはいません。減っています。

委員； 学校を誘致すれば、必然的に若い学生は来るし、教員も来るし、それも一つの手段かと思います。

事務局； 先ほど話があった新津も新潟薬科大学などが来て、同じようなことが言えると思います。

会長； 資料に「医学生の奨学金給付制度などを考えられないか」という意見が出ていますが、どうなっていますか。

事務局； 4月から実施予定ですでに募集していますが、応募はありません。制度を利用したいという申込者がまだいないということです。これは給付型ですが、卒業してから何年か村上市で働いてもらうことが条件になっています。

委員； 新潟県がずっとやっているもので、それと重なるところがあるのでしょうか。県の場合は、県内で働いてもらうことが条件になっており、県の考えとしては医療過疎地などへ勤務させようということがありました。なかなかうまくいきませんでした。地域医療枠ということで医学部に入りやすく支援も受けられる制度もありますが、卒業するとお金を一気に返して、東京に行ってしまう事例などもありました。

会長； 皆さんからたくさん意見もいただきました。時間にもなりますので、この辺で会議を閉めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、これをもちまして荒川地区の地域審議会の最終回を終了します。長い間ご尽力いただきましてありがとうございました。

5. 閉会 (17:00)